

●刈り入れの時期を間近に控えた富樫さんの水田。たわわに実った稲穂の様子を、富樫さんが熱心に見て回っていました。



明日を語ろう！ 北の農業人

KITANO NOUGYOUBITO



北海道農業に限りない愛情を注ぎ、
たゆまぬ努力を続ける人々がいます。
農業の未来を創造する「北の農業人」の
情熱や取り組みをご紹介します。

●小学校から帰ってきた長男の應介君(中央)とそのお友達とともに。「息子に後を継いでもらえたらうれしいけれど、本人のやりたいことを選んでほしい。今は野球に夢中なので、「プロ野球選手でもいいぞ」と言っています(笑)」

●新たな技術の導入とリスク分散でT・P・P参加に備える 道南随一の稲作地帯で 早くから直播栽培を導入。 農業の効率化やリスク分散に取り組み 未来に続く農業の姿を模索する。



北海道の水田発祥の地で 直播栽培に取り組み

北海道新幹線の開業を間近に控えた道南の北斗市。のどかな農村風景とは対照的に、建築工事が進む近代的な駅舎の姿が、新しい時代の到来を予感させます。

富樫孝さんは、北斗市で代々続く農家の4代目。この春、父親の富市さんから経営を引き継ぎました。北海道の水田発祥の地としても知られる北斗市だけに、主力は「ななつほし」や「ふっくりんこ」といった水稲。「歴史のある土地で代々米農家をしてきたので、やはり米づくりにこだわりますね」と笑います。

富樫さんが近年取り組んでいるのが、水稲の直播栽培です。直播を知ったのは、道



●富樫さんはこれまでに道南地区農協青年部協議会の部長を務めるなど、地域の農業を活性化するための活動に取り組んできました。「TPPIにどう備えるか、というのが、これからの課題です。自主流通や6次化など、できることに挑戦していきたいと考えています」



●ふくよかな甘みが人気の「トムスメ」。主にしょうゆや豆腐などの加工用として出荷されています。

効率化を図るために 乾田直播を増やしていきたい

直播を導入したことで、春先に田植えに掛かっていた労力が軽減され大豆に手を

「地域の普及指導員の方に協力してもらいながら、取り組み始めました。うちは家族経営なので、育苗管理や田植えの必要がない直播は大きな魅力でした」

見据えた対策だといいます。「T・P・P参加で予想される影響として、将来はさらに経費を削らなければならなくなる可能性があります。乾田は湛水よりも作業を省力化できるのが長所。乾田を始めてまだ3年目なので試行錯誤はありますが、仲間同士で情報交換をしたり、専門の方の話を聞きながら、できるだけ乾田の割合を高めていきたいと考えています」

実直に土と向き合いながら 激変の時代に対応する

土づくりに対しても独自のこだわりや工夫があります。「ごく普通にやっているだけ」と照れますが、なるべくロータリーを使わずにプラウで土を掘り起こしていることなど、手間を惜しまず、土づくりに大切にしている様子がうかがえます。

富樫さんは、大豆や長ネギの栽培も手掛けています。中でも大豆は、水稲の転作物として力を入れていて、栽培面積は13ヘクタールほど。水稲と大豆では土の条件が異なるのが工夫のしどころで、乾田直播



●長ネギは北斗市が一大産地で、昔から栽培されてきました。この地域の長ネギは甘みが強く、品質の良さが特徴なのだそう。

に切り替えているのも、大豆に適した土にするためなのだそう。「大豆の転作には、水田の有機質を利用できるため、堆肥を使わずにすむというメリットがあります。本当は麦も作りたいのですが、この地域は麦の収穫期に雨が多く、栽培には向いていませんでした。でも、気候も変わってきているし、T・P・Pや今後の経営のことを考えると、近いうちに麦も作らなければならぬでしょう」。水稲だけに依存するのではなく、大豆や麦などを栽培して、リスク分散することが必要なのだ、と言います。

将来を見据えて、これからは6次化にも挑戦してみたいと富樫さん。「原料もあることだし、味噌づくりをやってみたいね」と家族で話したりしています。新幹線も開通するし、北斗市の名産になればおもしろいかも」と目を輝かせます。

農業の効率化に取り組み、挑戦を続ける背景にあったのは、家業を守りたいという思い。「土づくりは手間を掛けて当たり前。プラウを使うのも、それが農家本来の姿だから」という言葉に、農業への限らない愛情が表れていました。